平成23年(2011)
阿づまの光
2月号・Februaro

五代教主作「備前水指」

題字 出口直日

通巻　第５０３号
発行　大本東京本部
東京本部長　松田行彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL（IP）050-5510-9502
03-3821-3701
FAX　03-3821-5283
E-mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

かむながら神のみことを畏みて
進みてゆかむ宣伝のたび

出口王仁三郎聖師

信仰の絆をより強固なものに

関東教区特派宣伝使　椎野恭三

特派活動に日ごろからご協力いただき、ありがたく御礼申し上げます。現在、特派活動は分所・支部の巡回から、序々に個人宅の訪問に移行させていただいております。色々な方々にお会いできる喜びと、ご縁が結ばれていくありがたさに、感謝であります。

先日も信徒の方々とごいっしょに九十五歳の女性の方のお見舞いに、あるケアハウスを訪問いたしました。その方は読書好きで、明るく知的でお元気でありました。会話もスムーズで、政治の話題になると「ちょっと国会議員がだらしないから、叱りつけに行こうかしら」と、ジョークもおっしゃる明朗な方。信徒の皆さんは「お見舞いに行った私たちが逆に（九十五歳の方から）元気をいただいたわね」と明るく感想を述べておられ、「また来ますよ」と声をかけてお別れする次第。

また、あるところでは急に「月次祭をしていただきたい」とおっしゃられ、祭典を実施し、月次祭の意義や信仰の喜びについてお話させていただきました。その折も分所の方々が同行され、伺った人たちも、迎えて下さった方々も笑顔で楽しいひとときを過ごすことができました。

あるいは、信徒の方の親戚や家族の方が集まり「食事をしながらの窮屈でない程度で、大本の話を」と要望され、和やかに懇談させていただいたり、み手代お取次の実施など、信徒宅の訪問は伺う側も迎える側も、ご神徳がいっぱいであります。

信徒間において、横のつながりをより強固なものにする巡回活動の大切さを実感した出来事でした。東に困った人がいたら相談に駆けつけ、西に病の人がいたらお取次ぎに駆けつけるフットワークと、思いやりを形に表す行動力が大切と実感いたします。当然、特派の巡回だけでは全てを補うことはできません。普段のお付き合いが大切であり、そのためには特任宣伝使や、分所長、支部長のお役も大切であります。またそれ以上に信徒の一人ひとりが仲良く明るく協力し合うことが大切であります。皆さん、お互いに信仰の友垣の絆をより一層強めさせていただきましょう。

第94回「21世紀、生きがい講座」より

明るく素直に前向きに⑪

みたままつり

講師 上田浩史（緑寿館内事部長）

復祭…日本古来のみたままつり

京都府綾部市の大本本部・梅松苑は、〝祭りの地場〟と言われています。神苑の上段には、長生殿といって、本宮山をご神体として天のご三体の神さまをおまつりする神殿があります。教主公館の緑寿館をはさんで、その下段に、みろく殿という建物があり、苑内では日々神祭と霊祭が執り行われています。

みろく殿は、昭和二十八年に完成し、それより平成四年（開教百年）に長生殿が完成するまで、すべての祭典がこのみろく殿で執行され、長生殿完成後は、祖霊社として、その役割を果たしています。

大本では第二次大本事件で弾圧された後、日本でも敗戦直後の本当に物資のない時代に、先人の方々が、これだけの建物をご造営された、本当に尊いことでした。

このみろく殿に、万霊社を新設させていただくこと、これが現在教団で行っている開教百二十年事業の梅松苑におけるメイン事業となり、これまで以上に、みたままつりを充実させていただくこととなりました。このことを、出口紅五代教主は強く胸に抱いていらっしゃったと思います。

では大本のみたままつりとは、いったいどういったものなのでしょうか。

神さまをお祀りさせていただくだけでなく、私たちのご先祖さま、それから霊界のみたままをあつくおまつりさせていただいていることが、大本のみたままつりの大きな特徴です。

大本のみたままつりは、私たちの先祖である祖霊さまと、直接の先祖ではありませんが霊界に籍を置くすべてのみたまさま・万霊さまをおまつりをしています。いずれも、大神さまを中心に、大神さまと相並んで、大神さまのご守護のもとおまつりをさせていただきます。

先祖のみたまを大本の方式でおまつりさせていただくことを、「復祭」と申します。「大本祭式」には、復祭について次のように示されています。

「日本では古来、祖先の霊魂すなわち『祖霊』をかんながらの道にそった方法でお祀りしていました。しかし、その祖霊祭祀のあり方は、六世紀中期に伝来した仏教の影響で、多くは仏式に変わってしまいました。大本では、真の神さまの救いの道をいただき、祖霊祭祀を本来のあり方（神の道）にかえしました。これが、大本の祖霊祭祀（みたままつり）の根本である『復祭』です」

神さまのもとで、おまつりをさせていただくことが、大本におけるみたままつりの大きな基本なのです。

今から百十九年前、国祖の大神さまが、出口なお開祖に神懸かられ、大本が出現しましたが、そのことを〝国祖のご再現〟とも申しています。

ご再現ですから、太古の昔、国祖の大神さまがこの世を治めておられました。そのころから、みたままつりは大神さまのもとで執行されていたのです。日本は、古来から神道によってみたままつりを行ってきた国柄なのです。

ところが、仏教をはじめいろんな宗教が海外から入ってきて、みたままつりの形が変わってしまい、現在に至っています。

大本は、まだ開教百二十年に満たない新しい教団かもしれませんが、みたままつりのあり方は、古来から行われてきたものであり、大神さまの絶大なるご守護のもとみたまの救済につながっていくものです。復祭とは、祖霊祭祀を日本の本来のあり方にまつりかえさせていただくことであって、大本の全く新しい方式にするものではないのです。

私たちの祖霊さまの数

では、私たちがまつらせていただくべき祖霊さま、すなわち直系のご先祖さまは、いったいどれくらいの方がいらっしゃるでしょう。

一代で二人、二代で四人と順に数えていきますと、十代さかのぼると千二十四人、二十代になると十万八千五百七十六人。三十代になったら十億人を超える祖霊さまがいらっしゃるのです。

大変驚くべき数字ですが、この中のお一人でも欠けたら、例えば私上田家の直系のご先祖さまの誰か一人でもいなかったら、私は現界に生まれてくることはできません。私たち自身を世に生み出してくださった、恩人の方ばかりを、おまつりしていることになります。

大本信徒でご家庭に祖霊さまをおまつりすると、朝夕祖霊さまに『祖霊拝詞』を奏上します。この祝詞の冒頭に「遠津御祖神代々之祖等親族家族之神霊」と唱えますが、「遠津御祖神」とは、国祖国常立尊ご神政の時代にいらっしゃった私たちのご先祖さまにあたります。次に「代々之祖等」とは、遠津御祖神以降の直系の代々のご先祖さまのこと、そして「親族家族之神霊」は、それ以降の直系以外の神霊たちとなります。

ですから神代の昔から現代に至るまでの数多くのご先祖・祖霊さまに対して、私たちはお祈りをささげていることになります。

万霊の救済

続いて、万霊社についてご紹介します。

万霊社の新設にあたり、五代教主はこうご教示になりました。

『綾部では、みろく殿の改修工事がはじまり、大神さまを中心に両側に祖霊さまと万霊がおまつりされることになります。今日のように世が乱れ、大三災、小三災が頻発する世の中で苦しんでいるみたまが救われることは、大変大事なことです。

昭和二十五年一月十九日、斎納社に万霊が鎮斎されたおり、出口すみこ二代教主が次の

みろく殿内部（右から祖霊社・大神さま・万霊社）

お歌を詠んでおられます。

「ありがたや幾萬年をくるしめるみたまらすくひの舟に乗るなり」

「霊界にくるしむみたまを世にあげていつきまつるぞうれしがりけり」

二代教主さまは、世におちて苦しんでいるみたまが万霊社におまつりできたことを大変お喜びになっています。

どの宗派でも、先祖供養の大切さを教えておられますが、代々の先祖を大神さまにお救いいただき、みたまの向上とみ幸をお祈りするというみたままつりの方式を確立しているのは大本だけではないでしょうか』

万霊を初めておまつりされたのは出口すみこ二代教主です。この時は太平洋戦争でお亡くなりになったみたまさまを丁重におまつりされました。私たち大本信徒の祖先に限定されたのではなく、すべてのみたまさまの中で、特に世に落ちておられるみたまさまに何とか救いの手を差しのべて、向上していただきたいとの大きな願いがあったと思います。

現界と霊界は合わせ鏡

大本が出現した目的は、地上天国の建設ですが、地上天国を建設するだけでは、本当の意味での天国建設とは言えません。

大本では「現界と霊界は合わせ鏡である」と教えられています。つまり現界が良くなれば、霊界が良くなり、霊界が良くなれば、現界が良くなるのです。

祖霊祭祀で申し上げるならば、私たちのご祖先の合わせ鏡となるのは、現界に生きる私たち子孫になりますから、しっかりと祖先の霊をおまつりすることは、私たちの幸せにつながってくるのです。

それを世界大で考えると、すべてのみたまさまが良くならなければ、地上天国は実現しないということなのです。梅松苑に万霊社を新設させていただいたことは、世界大のみたまさまをおまつりし、お救い申し上げることになるのです。

万霊社では、国家、民族、貴賤、敵味方の区別なく、すべての神霊を神の御子としてとらえて、次の神霊さまをおまつりしています。

①古より（いにしえ）世界の国々で戦争のため犠牲となった諸々の神霊

人類の歴史を紐解くと、本当に悲惨な戦争がたくさんありました。

最近でもこのイラクやアフガニスタンなど中東各地で、尊い命が毎日亡くなっています。どれだけ無念の思いを持って、霊界に行ったかわかりません。

②交通、災害、風水害、諸々の事故で亡くなった神霊等

これは事故になります。まず交通事故をはじめ自然災害による事故。大雨や長雨による水害や台風、ハリケーン、また地震による津波もあります。また今年（平成二十二年）だけでもハイチやチリ、中国・青海省で大地震がありました。

③貧困、病、食糧難にて亡くなった神霊等

先ほどの水害なども当てはまると思いますが、地球温暖化による異常気象により、雨が降らなかったりとか、または逆に長雨が続いたりして作物が収穫されなかったり、または北朝鮮など国の経済が不安定で食糧難に見舞われ、餓死して亡くなる神霊さまになります。

④信仰中止などで、祭祀の途が絶えた神霊

お祖父さん、お祖母さん、またお父さんやお母さんは大本信仰されていたものの、子どもの代になって継承されなくなった神霊さまも、この万霊社での祭祀の対象になります。

⑤教主さまのお言葉で、平成十四年十一月から幽家合祀してきた災害、交通事故、テロ、戦争、疫病、地震等で、犠牲となった世界各国の神霊（万霊）

霊界が良くなれば現界が良くなる

五代教主が、教主にご就任になった平成十三（二〇〇一）年に、アメリカ同時多発テロが起こりました。その時のことを次のようにお述べになりました。

「私が教主に就任いたしましたのが平成十三年で、その年の九月十一日に米国同時多発テロが起こりました。それは私にとって、就任後、心の痛む大きな出来事でございました。

ちょうど同時刻に、周辺がザワザワし、何か多くのものに体を引っぱられるような感覚に陥りました。初めての体験でしたが、後になって同時多発テロがあったことを知り、多くのみたまが大神さまに救いを求めて聖地にこられたように感じました。

その事件以降、アフガン攻撃やイラク戦争をはじめ、報復の連鎖が止まらなくなり、現在に至るまで多くの人々が犠牲になりました。また各国でもテロが多発し、同時に、地震や津波など大きな災害が続けて起こっています」

五代教主はゆくりなくもお亡くなりになったみたまさまに対して、思いを馳せられたのだと拝察します。それ以後、五代教主よりいろんなご指示がありました。

例えば、津波でたくさんの方が亡くなられた、大きな地震が発生した、あの国が大変な状況になった、こんな戦争に発展した。また死刑が執行されたというふうな事を含めまして「このみたまさんたちをしっかり祀ってあげてもらえるようにしてください」とご指示があって、霊祭部でみたまさまのみ慰め、みたままつりをしていただいておりました。

そういったことから、万霊社の新設を、五代教主が願われるようになったわけです。

特に、戦争や災害、病気、飢餓、事故といった突然の出来事によって無念の思いを残したり、残された家族のことなど現界に思いを残して亡くなられた、いわゆる世に落ちて、なかなか進むべき霊界にあがることができない状況であったのではないかと思います。

大本の信仰をいただき、それぞれのご先祖をお祀りすることにより各家のみたまさまが向上され、幸せになっていかれることはもちろん大事なことですが、大本はそれだけではなく、やはり世界の大本、世の中そのものが良くなっていく道を、しっかりと歩んでいかなければなりません。

そういった意味で、万霊社が綾の聖地に完成したことは、とても大きな意味があると確信しています。

平成23年東光苑新年祭

平成二十三年辛卯東光苑新年祭は一月一日、午前七時より斎主・森良秀東京本部次長のもと執行され、九十七人が参拝した。

祭典後、参拝者全員で教主さまのお写真に向かって新年のごあいさつを申し上げたのち、教主さまの新年ごあいさつ（録画）を拝聴。最後に松田行彦東京本部長が新年のあいさつをのべた。

その後、お神酒接待と神代餅の直会をいただいた。

なお、正月三が日の参拝者数は四百九人だった。

七草粥接待

東京本部の七草粥接待は一月七日、午前十時三十分より午後三時まで行われ、百五十四人が入席した。

春の七草は、東京本部職員らが栃木主会東山分所周辺にて摘んだもので、当日は関東教区直心会員と東京本部の職員が、温かく炊き込まれた七草粥をはじめ、おすましや柚味噌、塩昆布、ごまめなどを盛りつけて入席者をもてなした。

また本席の他に二階の鶴と亀の間では歴代教主・教主補さまのお作品展示が、一階の東光庵では薄茶の接待が行われた。

東光苑月次祭・成人式

東光苑月次祭・成人式式典は一月九日午前十時三十分から、斎主・出口京太郎大本宣伝使会長のもと執行され、四百二十五人が参拝した。

祭員は千葉主会、少女祭員は千葉主会の恵福幸栄さん、福山舞花さん、木村想さん、と静岡主会の宮下萩恵さん、伶人は宮咲会関東支部、大本神諭拝読は中嶋浩山梨主会長が担当した。

祭典後、松田行彦本部長と出口宣伝使会長があいさつ。次いで成人式典に移った。

成人式典は、はじめに参拝した新成人（柴原晴日さん〈茨城〉椎野文さん〈東京〉佐藤光一郎さん〈神奈川〉佐和山寿さん〈松香〉の四人が紹介され、続いて永井兌子直心会福島連合会長より大本本部、直心会、大本青年部からの記念品が新成人に贈呈され、祝辞が述べられ、最後に新成人を代表して柴原晴日さんが清々しく答辞を述べた。

その後、新成人は東光庵の添釜に入席したほか、関東教区青年部主催による「成人祝賀会」に出席。新成人の門出を祝した。

新成人おめでとうございます

第96回「21世紀、生きがい講座」

第九十六回『二十一世紀、生きがい講座』は一月十九日午後七時から九時まで、東京本部講座室において、椎野恭三関東教区特派宣伝使を講師に「生活と信仰」と題して開催された。参加者は十九人（うち、一般五人）。

講座では、各地での宣教活動を通じて出会った信徒の姿や体験談を紹介したほか、歴代教主・教主補さまや歴史上人物の短歌やエピソードを交えて解説。「魂を磨くことと同時に〝いきいきと生きる〟前向きな心構えが大切である」と説いた。

参加者からは、「穏やかな気持ちになりました。（四十三歳・男性・一般）」などの声が寄せられた。

東光苑春季祭式講習会

日　程　３月２６日午前９時受付、９時半開講式
～２７日　午後４時ごろまで

会　場　東光苑　大本東京本部

参加費　１，０００円
※ただし、食事・宿泊代（２，２００円）は別途必要となります

内　容　初級クラス　基本動作から月次祭まで
中級クラス　大神鎮座祭、祖霊鎮祭まで
特別クラス　神祭、霊葬祭
※特別クラスは級の認定がございません

持参品　笏、大本祭式の本、帯または紐（懐笏時に必要）、筆記用具、動きやすい服装、足袋（あれば履く方が動作が容易）、宿泊用品（宿泊される方）
※笏は稽古用を貸与可能

申込み　受講クラス、食事宿泊を明記の上、大本東京本部祭務部「春季祭式講習会」宛にお申込み下さい

定　員　４０人

締　切　３月１９日(土)
※定員になり次第締め切りとなりますので、お早めにお申し込みください。

東光苑祭典・行事紹介

2月

節分大祭遥拝祭
二代教主・四代教主聖誕祭
3日（木）午後6時半

東光苑月次祭・豊年祈願祭
市杵島姫命例祭
13日（日）午前10時半

第97回「21世紀、生きがい講座」
講題　深海から見た地球、そして生命
講師　田中武男（理学博士）
16日（水）午後7時～9時

教本3級認定講習会
26日（土）～27日（日）

3月

東光苑月次祭（教主さまご臨席）
春季合同慰霊祭
13日（日）午前10時半

第98回「21世紀、生きがい講座」
講題　偉大なる大地とその神秘
講師　島本光久（愛善みずほ会理事）
16日（水）午後7時～9時

東光苑春季祭式講習会
26日（土）～27日（日）

二代教主毎年祭（59年）
31日（水）午前10時半